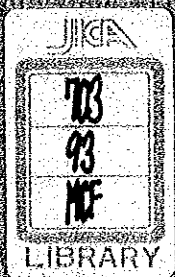


ブラジル国カンピーナス大学  
消化器病診断・研究センタープロジェクト  
計画打合せ調査団報告書

平成3年2月

医療協力部医療協力課





10301071

93

ブラジル国カンピーナス大学  
消化器病診断・研究センタープロジェクト  
計画打合せ調査団報告書

JICA LIBRARY



1090572(7)

22774

平成3年2月

医療協力部医療協力課

国際協力事業団

22374

# 序 文

サンパウロ州第五行政区の中央病院的役割を担う、カンピーナス大学医学部にガストロセンターが設置された。ブラジル国政府は、我が方に対し同センターにおいて出血性消化器疾患の診断・研究能力の向上を目的とした技術要請越した。

平成2年7月6日にR/Dが署名・交換されプロジェクト方式技術協力が開始された。

我が国は平成2年11月9日から11月25日まで計画打合せ調査団を派遣し5年間の協力計画についてブラジル側と協議した。R/Dが署名・交換後、初めての調査団であり具体的な調査・協議を行った。

本報告書はその調査結果を取り纏めたものであり、ここに調査団員各位のご協力に対し、深甚なる敬意を表する次第である。

平成3年2月

国際協力事業団

医療協力部長 曾 我 紘 一



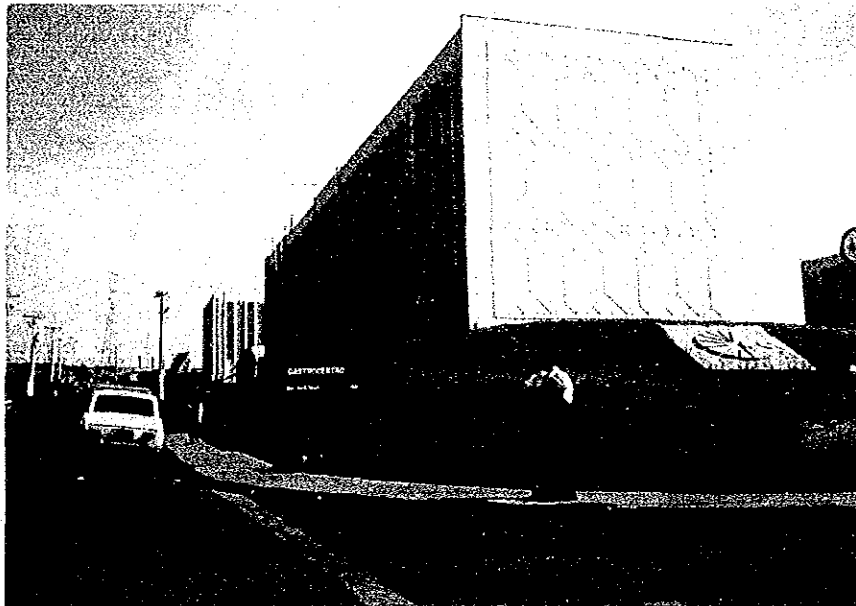
打合せ光景



ミニッツ署名



ガストロセントロ金景







# 目 次

序 文

写 真

1. 計画打合せ調査団派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
2. 要 約	4
3. 暫定実施計画の進捗状況	6
4. 暫定実施計画（TSI）及び詳細年次計画	8
4-1 詳細年次計画について	8
4-2 ミ ニ ッ ツ	13
5. 合同委員会の協議結果	22
6. 附 属 資 料	24
6-1 Gastrocentroの組織図	24
6-2 予算関連資料	26
6-3 Gastrocentroの図面	



# 1. 計画打合せ調査団派遣

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

寄生虫疾患のひとつであるマンソン住血吸虫症は、感染初期の段階で適切な処置が為されれば重篤な肝臓障害及び食道静脈瘤を惹起することなく予後は、良好な疾病である。

しかしながらブラジル国においては未だ、同疾患に対する診断・治療が十分に確立されているとは言い難い。

またマンソン住血吸虫症他が起因となる食道静脈瘤の以外に、悪性新生物を初めとする出血性の消化器疾患が、同国では急増しつつある。

そこでブラジル国政府は、サンパウロ州第五行政区400万人を対象とした中央病院として役割を果たしているカンピーナス大学病院内に、消化器病診断・研究センターを設立し、出血性消化器疾患をターゲットにした医療技術協力を要請してきた。

これに対し、国際協力事業団は、昭和61年11月プロジェクト形成調査団、昭和62年11月事前調査団、昭和63年5月実施協議調査団を派遣し要請の背景及び内容を調査した結果、日本側が技術協力を実施することで合意した。平成2年7月にR/Dが発効し5年間を協力期間とした「カンピーナス大学消化器病診断・研究センタープロジェクト」が始まった。

当調査団は、プロジェクト開始にあたり、具体的な協力内容を相手側受人機関と検討するべく派遣されたものである。

## 1-2 調査団の構成

1. 佐藤 良也 (総括)	琉球大学	教授
2. 藤巻 雅夫 (外科)	富山医科薬科大学	教授
3. 藤井 惇 (外科)	四日市中央病院	院長
4. 渡辺 明治 (外科)	富山医科薬科大学	教授
5. 坂本 隆 (外科)	富山医科薬科大学	助手
6. 若林 泰文 (内科)	富山医科薬科大学	助手
7. 宮田 裕州 (医学教育)	文部省高等教育局医学教育課	主任
8. 浅野 寿夫 (協力計画)	国際協力事業団医療協力部医療協力課	課長代理
9. 吉田 弘 (業務調整)	国際協力事業団医療協力部医療協力課	職員

(順不同)

1-3 調査日程

日時	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	11/9	金	19:00 成田 VARIG RG831	
	11/10	土	09:25 サンパウロ RG266	
	11/11	日	14:00 ————— 15:40 サンパウロ ————— ブラジリア	
	11/12	月	18:00 ————— 19:30 ブラジリア ————— サンパウロ TR305	9:00 ブラジル大使 JICA 表敬打合せ 11:00 伯外務省 (ABC) 表敬
	11/13	火		9:15 JICA 事務所打合せ 15:00 UNICAMP 学長表敬 15:30 チームリーダー・調整員と打合せ
	11/14	水		9:00 第一回全体協議 14:00 分野別協議
	11/15	木		資料整理
	11/16	金	19:00 (藤巻、藤井団員) 成田 RG831	9:00 第二回全体協議 14:00 分野別協議
	11/17	土	09:25 サンパウロ	(資料整理)
	11/18	日	17:40 (渡辺団員) 成田 JL062	(資料整理)
	11/19	月	12:15 サンパウロ	10:00 ミニッツ署名
	11/20	火	16:00~ カンピーンナス サンパウロ (佐藤、宮田、浅野、吉田)	・藤巻、藤井、渡辺、坂本、若林団員 11:30~ GASTROENTRO 開所式及び、セミナー出席 ・佐藤、宮田、浅野、吉田団員
	11/21	水	佐藤、宮田、浅野、吉田団員 22:00 サンパウロ 06:30 ————— ニューヨーク	10:00 JICA 事務所報告 14:00 総領事館表敬
	11/22	木	12:30 ————— ニューヨーク	セミナー終了
	11/23	金	16:40 ————— 成田	病院施設見学
	11/24	土	0:55 サンパウロ	
	11/25	日	13:40 成田	

## 1-4 主要面談者

### (1) ブラジル側関係者

- ・ABC (Agencia Brasileira de Cooperacao)

ビニョーレス

日本担当官

- ・カンピーナス大学

Carlos Vogt

学 長

NELSON.A.BRANDALISE

医学部長

ANTONIO FREDERICO N.NAGALHAES

所 長

JOSE CARLOS PAREJA

プロジェクトコーディネーター

A DEMAR YAMANAKA

セクレタリー

### (2) 日本側関係者

- ・ブラジル大使館

佐々木伸太郎

公 使

滝野 義和

一等書記官

- ・サンパウロ総領事館

石垣 泰司

総 領 事

三輪 徳子

副 領 事

- ・JICAブラジル事務所

斉藤 正次

所 長

本郷 豊

職 員

- ・JICAブラジル事務所

堀口 進一

所 長

土生 幹夫

室 長

佐々木弘一

職 員

## 2. 要 約

### 調 査 報 告 (総括)

1988年5月にR/D調印を終えた本プロジェクトは、本年7月をもって正式スタートする運びとなった。この間、実に2年余の長きに亘り、このため、R/D後に生じた新たな懸案事項、また、プロジェクト開始にともなう当初計画等について、ブラジル側関係者との間で具体的な協議を行なうことが、今回の調査団派遣の目的である。協議の概要について以下の通り報告する。R/D調印後、ブラジル側にあつては、前Costa学長からCarlos Vogt現学長に交代した以外、本センターの設置、運営に関わるブラジル側関係者（特に医学部関係者）に基本的に大きな変動はなかった。このため、協議にあたり、双方とも本プロジェクト策定に関する従前の経緯を十分に踏まえた建設的、かつ友好的な協議を実施し得たと考える。

調査団より本プロジェクトの当初活動計画案（専門家派遣計画、研修員受入計画等）および機材供与計画が以下のごとく示され、ブラジル側は特に異議なくこれを了承した。

#### 1) 本年度専門家派遣計画

チームリーダー（11月9日派遣）

調整員（11月1日派遣）

放射線技師、臨床検査技師（1991年3-4月派遣予定）

外科、内科医師（1991年4月以降派遣予定）

#### 2) 本年度研修員受入れ計画

外科、内科、寄生虫学の研修員を各1名受入れる。

#### 3) 本年度機材供与計画

前年度繰り越し分を含めて、総額15,000万円の機材供与を行なう。

他方、供与機材の保守管理について、ブラジル側より強い関心が寄せられ、本センター内に機材の保守管理に行なうための人員配置を行なう計画であること、加えてこれら保守管理要員が日本で必要な技術研修を受けることについて新たな協力要請がなされた。このことは、同センターの円滑な運営を図ろうとするブラジル側の積極的な自助努力の表われと受け取ることができ、その実現を図ることで合意がなされた。

プロジェクトの活動開始にともなう具体的な問題として、調査団側から専門家のカウンターパートの配置計画、日本側専門家に対する医師一時免許賦与の問題、センター建物の使用計画、およびセンター運営に関する大学予算の現状などについて説明、資料の提供が求められた。

カウンターパートは、これまでに日本で研修を終えたスタッフを含めて適切な配置計画（ページ参照）が示された。また、病理研究部門においてマンソン住血吸血虫症の血清診断、研究を行なうことに関連して、調査団側関係者から特に要望がなされ、これに関わる医学部以外の研究機関から必要に応じて協力を求めることができるよう、ミニッツに明記することにした。

専門家に対する医師一時免許の賦与について、ブラジルでは大学としてこれを賦与できることが説明され、本プロジェクトの日本側専門家に対しては一時免許を備えた客員教授として発令する用意がある

ことがブラジル側から示された。

センターに対する大学の予算措置は、まだ本センターが正式スタートに至っておらず、従って正式な予算措置（大学としての予算配分）はまだとられていないことがブラジル側から説明された。

しかし、本年度分の予算要求書の内容を見るかぎり、人件費、ランニングコスト等、予算案の額、バランスは比較的健全なものであった。（資料参照）

以上の協議結果を踏まえ、ブラジル側Brandalise教授（同センター長）との間で11月19日、ミニッツの署名を行なった。

尚、センターの建物は、既に昨年竣工しており、一部において内視鏡検査などが既に実施されていた。また、建物内には日本側専門家のためのスペースも十分に確保されていた。

ブラジル側にとって、本プロジェクトの開始には待望ものがあり、これに寄せる期待には従前に勝る強いものが感じられた。プロジェクト開始にあたり、今後は、日本側において早急、かつ強力な支援、協力体制を図って行く必要があると考えられた。

### 3. 暫定実施計画の進捗状況

#### 病理研究部門報告

当該センター内に病理研究部門を設置することは、本プロジェクト要請の背景として、マンスン住血吸虫感染による食道静脈瘤の多発傾向が指摘されることによる。このため、マンスン住血吸虫の血清診断を中心とした検査診断サービス、ならびに将来的に本病を撲滅するための基礎的研究を行なうこととし、これをR/Dに明記した。加えて、本病理研究部門は、その性格上、当然のことながら癌や他の消化器関連疾患の病理検査やAIDS、HBV感染等の臨床検査など、多彩な活動計画を背負うことになっている。

3年前の事前調査に参加し、かかる病理研究部門設置の問題点やその方策について以下のごとく報告した。

- 1) ブラジルでは、我が国の基礎医学に対応する研究分野が医学部外にあり、解剖学、細菌学、寄生虫学、免疫学などの講座は生物学部内に設置されている。本プロジェクトで問題となる住血吸虫症やシャーガス病の研究も、生物学部の寄生虫学、免疫学研究室においてそれぞれ実施されている。このため、医学部内では、かかる基礎研究の意義、必要性に対する認識は必ずしも高くないと判断されること。
- 2) 従って、病理研究部門でかけた活動計画、特に住血吸虫病関連の project activity を支障なく遂行するために、適切なブラジル側の専任研究員をカウンターパートとして配置すること。また、抗原として多量の寄生虫体を確保する必要等、計画遂行のベースとなる問題を解決するために、既に住血吸虫病の研究を進めている別な研究施設との協力体制が不可欠であること。

今回の計画打合せ調査にあたり、上記2) について、関係者との間で具体的協議を行なった。その結果を以下の通り報告する。

#### 1. ブラジル側カウンターパートの配置

病理関係において、これまでに2名の研修員（短期1名、長期1名）を受入れている。これら2名の研修員は、そのままセンター病理研究部門に所属し、消化器病関連の病理検査、研究にあたることになっている。これとは別に、マンスン住血吸虫症研究のための日本側専門家のカウンターパートとして、1名のブラジル側研究員を配置することに合意した。これには、3年前の事前調査において高い研究意欲が認められた女性研究員をあてることとした。当該研究員は日系2世であることから、日本側カウンターパートとして適当な人材として期待している。

#### 2. マンスン住血吸虫症に関する研究協力体制

寄生虫は細菌、ウイルスなどと異なり、一般に試験管内で培養することができない。従って、血清診断用抗原を調製するための寄生虫体の確保は実験動物を用いた感染実験によらねばならない。マンスン住血吸虫の場合も、虫体を多量に採取するためには、かなりの数の感染マウスを準備する必要がある。また、この寄生虫は中間宿主（淡水産巻貝）を必要とすることから、別に中間宿主への感染実



験も必要となる。しかも、感染中間宿主からは直接人体への感染の危険があることなど、材料確保の問題は、研究を遂行するうえで基本的な問題であるが、解決すべき面を多く含んでいる。

当該センターにおいて、かかるマウスや中間宿主の飼育スペースを確保することは、当初より不可能を考慮しており、このために既に Manson 住血吸虫症について研究を進めている既存の研究施設との協力体制が不可欠であることを強調しておいた。カンピーナス大学では、医学部内にこのような協力のできる研究施設はないが、生物学部に寄生虫学教室 (Luiz Candido de Souza Dias 教授) があること、ここでは既に Manson 住血吸虫症に関して多くの研究実績を挙げていることから、同寄生虫学教室との協力体制が適当であること、また、協力研究を行なうことで同教授の了解も得ていることなどは既に事前調査で報告してある。しかし、その後の経過を見る限り、ブラジル側関係者の中でその必要性に関する認識は薄く、また、学部を越えた協力体制に由来する問題点の存在も考慮された。このため、今回の協議では、この点について改めてブラジル側関係者と協議し、その必要性について理解を得るとともに、プロジェクト計画の遂行上、必要に応じて学部外からの協力を求めることができる旨、ミニッツにも明記した。

Dr. Luiz は、中国出張中で留守であったため、この件に関して、今回、改めて具体的協議を行なうことはできなかった。しかし、寄生虫学教室内スタッフやシャーガス病の研究を進めている生物学部免疫学教室の Dr. Humberto A. Rangel 教授などと会い、改めて協力依頼を行なった。

### 3. 研修員受入れ計画

Manson 住血吸虫症の協力研究にあたって、ブラジル側の研究協力者を日本で Technical training する必要があることで合意され、本年度、1名の寄生虫関連の研究者を研修員として受入れることにした。その人選について、ブラジル側カウンターパートと島袋チームリーダーとの間で協議し、推薦することになった。

### 4. 機材供与計画

本年度、供与予定の機材リストについて説明を行ない、今後、特に必要とされる機材があれば改めて協議することとし、基本的に了承された。また、供与機材の中で病理関連の機材が欠落していたことに関連して、本年度の見直し予算、携行機材予算をもってこれに対応し、可及的早い時期にこれを充足することを約束した。

以上の協議結果から、病理研究部門において Manson 住血吸虫症の血清学的診断、研究を行なうための条件は、ほぼ整えられたものと診断できる。他方、寄生虫病に関して言えば、ルーチン化された検査システムというものは存在しない。従って、その国の実情に合わせた最良の検査システムを確立することから始め、これを定着させることになる。このような観点から言えば、技術移転を云々する以前に現地において実施しなければならない多くの基礎的研究があることを日本、ブラジル側とも十分に理解する必要がある。同時にまた、その過程にあっては、プロジェクト開始後も多くの紆余曲折が予想されることを強調しておきたい。

## 4. 暫定実施計画 (TSI) 及び詳細年次計画

### 4-1. 詳細年次計画について

カンピーナス大学消化器病診断・研究プロジェクトの5年間の協力計画をログフレームワーク手法によりデザインを試みた。(table 1)。上位目標として「ブラジル国における出血性消化器病疾患の低減」を位置づけ作成したものである。さらにログフレームによるプランニングを実際化するために、時間軸を考慮した協力計画シート (table 2) を作成した。

これらの計画は、プロジェクトの進行に従い、修正されるべきものである。

table 1

	SUMMARY OF OBJECTIVES/ACTIVITIES	VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTION
ゴール	・ブラジルにおける出血性の消化器疾患罹患率の低減と死亡率の低減	・ブラジルにおける出血性の消化器疾患罹患率と死亡率 ・消化器癌による死亡率	・保健省等の統計資料 ・年次報告	・ブラジル国政府が当該問題に係る政策的なコミットメントすること
プロジェクトの目的	・カンピーナス大学消化器病診断・研究センターにおいて消化器病疾患の診断・治療技術の向上と同国の公衆衛生への寄与 以下の活動を通じて総合的に上記の目的を達成する。 ①研究分野への協力 ②臨床分野への協力 ③パラメディカル分野への協力 ④医学教育分野への協力	①発表論文数 ②取り扱い件数、救命率、正診率 ③取り扱い件数、メンテナンス体制、処理時間 ④実績	・カンピーナス大学消化器病診断・研究センター年次活動報告書(年次統計資料)	・カンピーナス大学よりの支援体制 ・日本側支援体制の継続
プロジェクトから期待される効果・output	①研究部門 疫学 epidemiology ・マツソ住血吸虫の血清疫学調査、マッピング 寄生虫学 parasitology ・マツソ住血吸虫、シャーガス病等寄生虫病に関する研究能力の向上 ②臨床部門 1. 消化器外科 surgery a. 食道静脈瘤oesophageal varices ・内視鏡診断技術の向上 ・硬化療法への導入 ・外科術の向上 b. 消化器癌 gastrointesrional cancer ・早期診断・発見制度の確立 ・外科術の向上 c. シャーガス病 ・巨大結腸、巨大食道への外科術の導入 2. 消化器内科 gastroenterology ・X線、超音波、内視鏡診断術の確立 ③パラメディカル部門 1. X線、超音波、内視鏡診断術の確立 2. 臨床検査体制の確立(免疫学的同定法、生化学的検査法) 3. 寄生虫診断技術の向上(集卵法等) 4. 病理検査技術の向上(病理組織標本の作成、cell screening) ④医学教育部門 ・消化器疾患に関する抄読会、研究発表会の定期開催 ・人的育成	①研究部門 epidemiology ・調査実績 parasitology ・発表論文数 ②臨床部門 1. 消化器外科 a. 食道静脈瘤 ・技術的評価(正診率、予後から見た診断の妥当性) ・技術的評価(救命率、生存日数) ・技術的評価(救命率、生存日数) b. 消化器癌 ・5年生存率 ・5年生存率 c. シャーガス病 ・技術的評価(治癒率、在院日数) 2. 消化器内科 ・技術的評価(正診率、予後から見た診断の妥当性) ③パラメディカル部門 ・取り扱い件数、メンテナンス(稼働率、故障率) ・取り扱い件数、処理時間 ・取り扱い件数、処理時間 ・取り扱い件数、処理時間 ④医学教育部門 ・開催実績 ・発表論文数	・専門家業務報告書 ・四半期業務報告書 ・刊行物(大学内学術誌、一般研究雑誌等) ・評価チーム派遣	①研究部門 疫学 ・保健省等の協力 寄生虫学 ・研究体制の確立、最新の情報収集 ②臨床部門 1. 消化器外科 a. 食道静脈瘤 ・必要数の内視鏡の確保、メンテナンス体制の確立 ・内視鏡的処置術の熟練 ・paramedicalとの連携、他分野医師との連携 b. 消化器癌 ・検診制度の整備 ・paramedicalとの連携、他分野医師との連携 c. シャーガス病 ・paramedicalとの連携、他分野医師との連携 2. 消化器内科 ・必要数の内視鏡の確保、メンテナンス体制の確立 ③パラメディカル部門 1. メンテナンス技術者の育成、スペア確保、消耗品の供給 2. 消耗品の供給(検査試薬等) 3. 消耗品の供給(検査試薬等) 4. 消耗品の供給(検査試薬等) ④医学教育部門 ・最新情報の提供、情報の整備 ・柔軟な人的交流
プロジェクトへの投入 INPUT	①専門家派遣と研修員の受け入れ 富山医科薬科大学、琉球大学 ②機材供与 ③ローカルコスト負担 一般現地業務費、現地研究費、その他	①専門家派遣実績、研修員実績 ②機材供与実績 ③ローカルコスト負担活用実績	①～③討議議事録(R/D)、暫定実施計画(TSI)	・プロジェクト実施期間中の日本側支援体制の継続、研修員の受け入れ

table 2

ブラジル国カンピーナス大学消化器病診断・研究センタープロジェクト  
 カンピーナス大学消化器病診断・研究センターにおいて出血性消化器病診断・治療技術の向上と同国の公衆衛生への寄与

部門	目的	分野	移 転 す る 技 術				インプット 専門家 研修員	主な支援体制 (責任者)	カウンターパート
			最終的 目標	初期	中期	終期			
臨床	予防	内科	・健診を含む健康管理 ・マソウ住血吸虫症の早期診断・発見による食道静脈瘤の予防 ・消化器癌の早期診断・発見の制度		・健康教育 ・検査体制 ・健診		専門家 > 研修員	富山医科薬科大学	Dr.
	診断	内科	内視鏡的診断技術 ・肝臓の検診を含む食道静脈瘤の診断 ・消化器癌検診を含む部位・重症度診断 ・その他出血性消化器疾患の内視鏡的診断	総合診断能力			専門家 < 研修員	富山医科薬科大学	Dr.
		放射線科	・X線、超音波等画像診断のための機器のメンテナンス ・良質な画像、部位、重症度診断	機器メンテナンス	診断能力		専門家 < 研修員	富山医科薬科大学	Dr.
	治療	内科	・内視鏡的処置術（出血源の確認、止血法） ・疾病背景のコントロール（食事療法、薬事療法）	同左	同左		専門家 > 研修員	富山医科薬科大学	Dr.
		外科	・食道静脈瘤の外科の手術適応、技術、術後ケア（食道離断術など） ・消化器癌の外科術の向上 ・その他出血性消化器疾患外科術の向上		手術手技 術後ケア		専門家 < 研修員	富山医科薬科大学	Dr.
コメディカル	診断	放射線科	・X線、超音波等画像診断のための機器のメンテナンス ・良質な画像、部位、重症度診断 ・臨床への迅速かつ正確な検査サービス提供	検査法手技	ルーチン体制		専門家 < 研修員	富山医科薬科大学	
		臨床検査	・血液検査（IIF, HBs, absorption, serection test、その他生化学的検査） ・寄生虫検査（集卵法、immunologycal detection） ・臨床への迅速かつ正確な検査サービス提供	検査法手技	ルーチン体制		専門家 < 研修員	琉球大学	
		病理検査	・病理組織標本、cell screening ・臨床への迅速かつ正確な検査サービス提供	組織標本の作成	ルーチン体制		専門家 < 研修員	富山医科薬科大学	
研究	研究	寄生虫学	・マソウ住血吸虫、シャガ病の迅速診断法の開発 ・寄生虫の免疫病理学的研究				専門家 > 研修員	琉球大学	
		病理学	・組織診断						
医学教育	教育	医学教育	・人的育成 ・消化器疾患に関する抄読会、研究発表会の定期開催				専門家 > 研修員	富山医科薬科大学	Dr
		総括						富山医科薬科大学・琉球大学	Dr

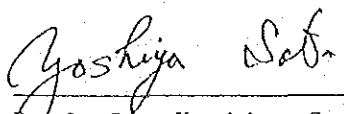
THE MINUTES OF MEETING  
BETWEEN THE JAPANESE PLANNING AND CONSULTATION SURVEY TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE FEDERATIVE REPUBLIC OF BRASIL  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR  
THE PROJECT ON GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER  
OF THE STATE UNIVERSITY OF CAMPINAS

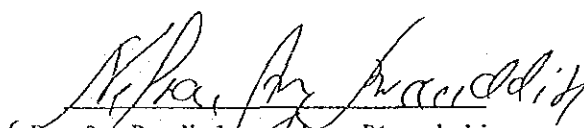
The Japanese Planning and Consultation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Dr. YOSHIYA SATO, Professor of Parasitology, the University of the Ryukyus, school of medicine, visited the Federative Republic of Brasil from 9th November to 25th November, 1990 for the purpose of working out the details of the Japanese Technical Cooperation for the Project on the Gastroenterological Diagnosis and Research Center of the State University of Campinas (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Federative Republic of Brasil, the Team observed the overall progress, exchanged views and had a series of discussions with the Brazilian authorities concerned.

As a result of the study and the discussions, the Team and the Brazilian authorities concerned agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Campinas, 19th, November, 1990

  
Prof. Dr. Yoshiya Sato  
Leader,  
Planning and Consultation,  
Survey Team  
Japan International  
Cooperation Agency,  
Japan

  
Prof. Dr. Nelson Ary Brandalise  
Executive Director  
of the Gastro Center,  
the State University of  
Campinas  
The Federative Republic of  
Brasil

ATTACHED DOCUMENT

I. GENERAL REVIEW

This project started on July 6, 1990, for the purpose of strengthening the capabilities of the diagnosis, treatment and research work for esophageal varices, gastrointestinal cancer and other digestive diseases in the field of gastroenterology, and thus contributing to the promotion of the public health in the Federative Republic of Brazil.

In order to achieve the purpose set above, Japanese Technical Cooperation will be expected to initiate in the fields of 1)clinics, 2)comedical, 3)research, 4)education in accordance with the Master Plan attached in the Record of Discussions signed on July 6, 1990.

From Brazilian side, The State University of Campinas ( hereinafter referred to as "UNICAMP") made big efforts constructing the 1,200 m<sup>2</sup> buildings in 1989 as a counterpart obligation to start the project.

On the other hand, up to date Japanese side dispatched two long term experts (chief advisor and liaison officer).

g. s.

*[Handwritten signature]*

## II The Tentative Schedule of Implementation

As a result of discussions, both sides agreed to modify the Tentative Schedule of Implementation signed May 16, 1988, as shown in ANNEX I.

The outline of the Tentative Schedule of Implementation in 1990 and 1991 Japanese fiscal year is as follows, and this Tentative Schedule of Implementation is subject to change according to the Japanese budgetary limit.

### 1. Japanese side

#### 1.1. Dispatch Schedule of Japanese experts to the Project

##### a. Long term experts

- 1) Chief advisor (Pathology), (1990.11. 9 ~ 1992.11. 8)
- 2) Liaison officer (1990.10.31 ~ 1992.10.30)
- 3) Clinical laboratory (1991 ~ 1992)
- 4) Radiology (1991 ~ 1992)
- 5) System engineer for administration of equipment of the Project (under consideration)

##### b. Short term experts

- 1) Surgery of digestive tract (6 man/month)
- 2) Gastroenterology (6 man/month)
- 3) Parasitology (3 man/month)
- 4) Other related fields mutually agreed upon as necessary

#### 1.2. Training of Brazilian counterpart personnel in Japan

- 1) Surgery of digestive tract
- 2) Gastroenterology
- 3) Parasitology
- 4) others mutually agreed upon

#### Note

UNICAMP considers very important the possibility to send an engineer to learn the repair technique of the medical equipments donated from JICA.

#### 1.3. Provision of the Equipment

Equipment necessary for the Project will be provided within the limit of the budgetary allocation of the Japanese side.

*Y. S.*

*Pa. K. M.*

2. Brazilian side

2.1. Securing the budgetary allocation in accordance with the implementation of the Project.

2.2. Appropriate provision of Brazilian counterpart personnel in accordance with the implementation of the project not only from the Center but also from other interested department of UNICAMP as necessary.

III Temporary licence

The authorities concerned of UNICAMP will issue a temporary licence in medicine to Japanese experts to practice at UNICAMP who are qualified in accordance with the laws and regulations in force in Japan upon arrival in the Federative Republic of Brazil .

*G. S.*

*Lucia*



TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE FOR THE PROJECT  
ON GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS  
AND RESEARCH CENTER OF UNICAMP

GENERAL

	( First Year )	( Second Year )	( Third Year )	( Fourth Year )	( fth Year )	
Japanese F/Y (April March)	1990	1991	1992	1993	1994	1995
1. TRAINING IN JAPAN		1)Surgery 2)Gastroenterology 3)Parasitology (3)	1)Surgery 2)Gastroenterology 3)Others (3)	1)Surgery 2)Gastroenterology 3)Others (3)	1)Surgery 2)Gastroenterology 3)Others (3)	
2. JAPANESE EXPERTS						
1) Chief Leader						
2) Liaison Officer						
3) Clinical medicine						
a. Surgery (ANNEX I)						
b. Gastroenterology (ANNEX II)						
4) Comedical (ANNEX III)						
· Radiology						
· Clinical Laboratory						
5) Research (ANNEX IV)						
· Parasitology						
· Pathology						
6) Others (ANNEX V)						
3. EQUIPMENT	+	+	+	+	+	
4. SURVEY TEAMS		Advisory	Repair & Adjustment	Advisory	Evaluation	
TERM OF COOPERATION (R/D)						

*Handwritten signature and initials*

TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE FOR THE PROJECT  
ON GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS  
AND RESEARCH CENTER OF UNICAMP

ANNEX I SURGERY OF DIGESTIVE TRACT

	(First Year)	(Second Year)	(Third Year)	(Fourth Year)	(Fifth Year)
Japanese F/Y (April March)	1990	1991	1992	1993	1994
Activities					
1)Esophageal varices					
·Technique of endoscopy					
·Endoscopic treatment					
·Guidance for surgery					
·Follow up study and aftercare of surgery					
2)Gastrointestinal cancer					
·Technique of endoscopy					
·Endoscopic treatment					
·Guidance for surgery					
·Follow up study and aftercare of surgery					
3)Chagas' disease					
·Guidance for surgery					
4)Other digestive diseases					
TERM OF COOPERATION (R/D)					

*Handwritten signatures and initials:*  
 [Signature]  
 [Signature]  
 S

TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE FOR THE PROJECT  
ON GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS  
AND RESEARCH CENTER OF UNICAMP

ANNEX II GASTROENTEROLOGY

	( First Year )	( Second Year )	( Third Year )	( Fourth Year )	( Fifth Year )	
Japanese F/Y (April March)	1990	1991	1992	1993	1994	1995
Activities						
1)Esophageal varices						
-Diagnosis and treatment of schistosomiasis						
-Technique of endoscopy						
-Endoscopic treatment						
-Diagnosis and treatment of Hepatology (Abdominal ultrasonography etc.)						
2)Gastrointestinal cancer						
-Technique of endoscopy, Ultrasonography and X-ray						
-Endoscopic treatment						
-Follow up study and aftercare of surgery						
3)Other digestive diseases						
TERM OF COOPERATION (R/D)						

*Handwritten signature*  
y. s.

TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE FOR THE PROJECT  
ON GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS  
AND RESEARCH CENTER OF UNICAMP

ANNEX III COMEDICAL

	(First Year)	(Second Year)	(Third Year)	(Fourth Year)	(Fifth Year)
Japanese FY (April March)	1990	1991	1992	1993	1994
Activities 1) Clinical examination - Diagnostic services for HIV, HB, schistosomiasis and syphilis in the center 3) Image diagnosis - Manipulation of X-ray TV and ultrasonography					
TERM OF COOPERATION (R/D)	-----				

*M. A. C. D.*  
*J. S.*

TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE FOR THE PROJECT  
ON GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS  
AND RESEARCH CENTER OF UNICAMP

ANNEX IV RESEARCH

	( First Year )	( Second Year )	( Third Year )	( Fourth Year )	( Fifth Year )
Japanese FY (April March)	1990	1991	1992	1993	1994
Activities					
1) Parasitology					
· Seroepidemiological field surveys on schistosomiasis and HB					
· development of new detection system for parasite					
· Comparative studies of different serological tests on schistosomiasis					
· surveys on actual mode of the infections in the foci					
· other related research activities mutually agreed upon					
2) Pathology					
TERM OF COOPERATION (R/Y)					

*Procalm*  
*g. sp.*

## 5. 合同委員会の協議結果 経緯と概要

11月14日、第1回の合同委員会を開催し、今後のプロジェクト進捗計画についてブラジル側と協議を行った。

先方ブラジル側より、Brandalise消化器病診断センター長、Parejaプロジェクトコーディネータ（医師）、Yamanaka調整担当（医師）他が、また、日本側は調査団他、島袋チーフアドバイザー、三澤調整員が出席した。

合同委員会では、1)今年7月における討議議事録(R/D)署名後の日本側及びブラジル側のこれまでのプロジェクト投入実績、2)90年度後半及び91年度における専門家派遣、研修員受入れ、機材供与計画、3)ブラジル側の実施体制の確認(プロジェクト施設、カウンターパート配置、予算確保、日本人専門家に対する医師免許等)、4)協力部門別活動計画について協議を行い、双方にて以下の合意に達した。1)双方のこれまでのプロジェクトの実績については、ブラジル側の努力により本件プロジェクト実施のために、カンピーナス大学内に消化器診断センター(1200㎡)を1989年に建設し、プロジェクト体制整備を整えた。他方、日本側もチーフアドバイザー及び調整員の2名の専門家を既に派遣し、双方にてプロジェクトの実施開始を確認した。また、ミニッツには記載しなかったが、日本側は、既に、89年度、90年度供与機材TVエックス線装置等供与機材の購入・輸送手続きを進めており、一部機材については、今年11月にはブラジル側に送付できる旨説明し、据え付け準備を行うよう求めた。2)今年度後半及び来年度における日本側による専門家派遣・研修員受入れ・供与機材計画については、下記のとおり計画にて合意した。

### a) 専門家派遣

長期専門家 (チーフアドバイザー派遣済み)  
(調整員派遣済み)  
(臨床検査 91年から1年間)  
(エックス線技術 91年から1年間)  
(機材管理システムエンジニア 検討中)  
短期専門家 (外科 6M/M)  
(内科 6M/M)  
(寄生虫学 3M/M)  
(その他)

### b) 研修員受入れ

外科・内科・寄生虫学及びその他双方合意分野として、来年度受入れ枠は3名を計画していることで了解した。本件計画においては、ブラジル側としては供与機材の維持・管理に強い関心を持ち、カンピーナス大学の医療機器全てを担当している機材管理セクションの人材の研修を強く要望した。日本側としては、当該プロジェクト供与機材の管理・維持状況についてのシステム作成のために専門家派遣を計画していることもあり、それらと併せて本研修員の受入れを検討することとした。この点については、ミニッツ上、注記としてブラジル側の要望を記述した。

### c) 供与機材

供与機材計画については、89年度及び90年度分の購入・送付に係る進捗状況ならびに、我が方供与機材の手続きをブラジル側に説明するとともに、来年度供与機材についての検討を日本側チーフアドバイザーとその内容につき、詰める作業を始めるよう要望した。供与金額については、日本側の予算上の制約内での供与になることで了解を得た。

### 3) ブラジル側の実施体制の確認

プロジェクトの実施にあたって、以下の点につき、ブラジル側体制の調査を行い、確認した。

#### a) プロジェクト施設

本プロジェクト実施施設として、ブラジル側はカンピーナス大学敷地内に1200㎡規模の消化器病センターを完成させており、既に一部診断機能を開始させている。また、プロジェクトサイトとして、チーフアドバイザー、調整員及び専門家室も確保されている。今後、機材の到着を待って、より具体的な機材配置スペースが確定されていくことになる。

b) カウンターパート配置

Magalhaes 医学部長、Brandalise 消化器病診断センター長、Pareja プロジェクトコーディネーター、Yamanaka 調整担当（医師）をはじめとする中心的カウンターパートは、本件協力事業の実施協議調査団時と全く変更はなく、その他、外科、内科当関連部門のカウンターパートの配置がなされている。但し、寄生虫学部門ではセンター内に適当な人材が確保できない場合には、大学内で他の学部より人材を求めることで合意した。概ね、センター内のカウンターパートの配置は管理部門も含めて順調に進んでいることが窺われ、ブラジル側の本プロジェクトに対する意欲が窺われた。

c) 予算確保

センターにおける予算確保状況は、別表のとおりであるが、プロジェクトの開始が今年7月となったことから、運営管理費として、6,018,241.33ルビロ(1ルビロ=1円、11月現在)が大学当局から承認されており、人件費、4,697,519.97ルビロ、及び施設維持費、5,810,948.00ルビロについては、今後承認されることになるとのBrandalise 消化器病診断センター長よりの発言があった。更に、今後の予算確保の見通しとして、大学当局からの経常収入の他に、センター独自に患者からの診断収入が考慮されることで、現在の予算より増加が見込まれるとのことであった。

d) 日本人専門家に対する医師免許の発給

日本人専門家がプロジェクトにおいて診断・治療を技術移転する際に、事故等による免責を明確にするべく、ブラジルにおける日本人専門家に対する医師免許の発給についてブラジル側に確認したところ、ブラジルでの医師免許は各大学が付与するものであり、本件プロジェクトについても、プロジェクトにかかる診療行為に対しては、大学が専門家にVisiting Licenseを発給するとともに、大学がその責任を負うことになる旨の了解が得られた。

16日、上記協議内容につき、14日に出席したブラジル側関係者の他、Magalhaes 医学部長の出席のもと、第2回目の合同会議が開催され、再度、双方にて検討を行ったところ、14日の協議内容に沿って、ミニッツを署名・交換することになった。

19日、センター内にて、我が方調査団長と先方センター長との間で、上記内容及び部門別協力内容に係る暫定実施計画の署名・交換を行った。

また、今回の調査団の日程に併せて、ブラジル側は21日にセンター開所式を、その後記念セミナーを開催し、藤巻団員（国内委員長）、渡辺団員、坂本団員、若林団員が記念講演を行った。

## 6. 附 属 資 料

### 6-1 Gastrocentroの組織図

GASTROCENTRO [GC: 消化器センター (以下同じ)] の構造 (省令 GR 318/87)

GASTROCENTRO 諮問委員会

委員長: FCM - UNICAMP 理事長 - Luis Alberto Magna 教授

HC [付属病院 (以下同じ)] 理事長: Fernando L.B. Junior 教授

GASTROCENTRO 執行理事: Nelson A. Brandalise 教授

同執行副理事: A. Frederico N. Magalhaes 教授

学部長

医療: Reynaldo Quagliato Junior 教授

外科: Carlos Frazzato Junior 教授

小児科: Antonio de Azevedo Barros Filho 教授

---

GASTROCENTRO 執行理事会

執行理事: Nelson A. Brandalise 教授

執行副理事: A. Frederico N. Magalhaes 教授

管理補佐

Mariza Ap. Meira

胃腸病学訓練主任:

指導Ⅲ技術補佐

外科: Luis Sergio Leonardi 教授

Helena Lopes Silva

小児科: Roberto Jarbas de Toledo 教授

指導Ⅰ技術補佐

医療: A. Frederico N. Magalhaes 教授

---

GASTROCENTRO 部門 - 省令 318/87 による

・ 上部消化器内視鏡検査

主任: Nelson Ary Brandalise 教授

・ 下部消化器内視鏡検査

主任: Juvenal Ricardo N. Goes 教授

・ 腹壁内視鏡検査

・ 胃腸病学研究室

主任: Adriana Seva Pereira 教授

・ 腹部超音波診断

主任: Ademar Yamanaka 教授

---

GASTROCENTRO 合同業務 - 省令 318/87 による

消化器系レントゲン検査

主任: HC レントゲン診断部主任

責任者: GC 兼任 Irene H.K. Barcelos 教授

病理解剖 - 消化器細胞病理学研究室

当部門委員会指名の主任

Miriam Aparecida da Silva Trevisan 教授

臨床病理学 - 免疫寄生虫学研究室 - 血液採取

責任者: GC 兼任 Nancy Yamanaka 教授



その他の業務

レーザー治療－未設置

業務支援：看護

責任者：Sonia Maria Cavinatto

チーム：

専門分野（結腸内視鏡検査及び腹部超音波診断）処置実施事務

責任者：Clarinda Frau Prata 部長

・鑑定事務 Ricardo

・受付 Celia

消化器細胞病理学研究室及び免疫寄生虫学研究室事務－未設置

消化器レントゲン検査事務－未設置

胃腸病学研究室事務 Luciene

備考：技官：Helena,geni,Celia－準看

一般業務

配膳：

責任者：Eurides Neves l.Biazotto

・衛生及び清掃：HC人員 責任者 Raquel

・門番及び巡回員：警備員による

Odair Lisboa ; 7:00～16:00

Odair Mattias ; 14:00～22:00

・被服廠－未設置

保守その他の役務－GDA-6 提供 責任者 Joaquim da Silva

GASTROCENTRO 管理支援

稼動不確定、決定時職員待機中の部門

---

・購買／小規模取得／決算報告

・財務管理及び執行

・送り状作成及び管理

・倉庫管理／資産

・執務

GASTROCENTRO

JICA プロジェクト

日本側科学コーディネーター

Masao Fujimaki (藤巻雅夫) 教授

ブラジル側科学コーディネーター

A.Frederico N.Magalhaes 教授

プロジェクトコーディネーター

ブラジル Jose Carlos Pareja 教授

プロジェクト事務官

ブラジル Abemar Yamanaka 教授

JICA プロジェクト管理支援

Neusa Souza de Oliveira

その他日本代表補佐官－未決定

6-2 Gastrocentro 予算関連資料

カンピーナス州立大学 日付: 1990. 10. 5

GASTROCENTRO

UNICAMP [カンピーナス州立大学 (以下同じ)] / GASTROCENTRO [消化器センター (以下同じ)]  
/ INAMPS [医療社会保障国立研究所 (以下同じ)] 224-0 - 臨時予算動向

項 目	実 際 供 与	解 除 予 算	資 金 残 高	準 備 予 算	実 際 資 金 残 高
*****	*****	*****	*****	*****	*****
恒久設備及び資材	2,147,670.21	1,737,392.20	410,270.01	0	410,270.01
消費材	308,780.00	222,635.80	86,144.20	0	86,144.20
その他の役務及び費用	0.00	0.00	0.00	0	0.00
人員	0.00	0.00	0.00	0	0.00
人員役務報酬	0.00	0.00	0.00	0	0.00
*****					
合 計	2,456,400.21	1,960,020.00	496,422.21	0	496,422.21

医学部

"Zeferino Vaz" 大学都市

1990. 5. 21

DF. 082/90-SECS/FCM

1990年6月度収納見積書

\*\*\*\*\*

\*GASTROCENTRO\*

見積もり供与額

1 - 移動病院 Cr\$ 2,100,000.00

合計 (A) Cr\$ 2,100,000.00

控除見積もり

1 - FAP [研究援護財団 (以下同じ)] Cr\$ 5,008.00

2 - FCM [マリアンナ連合 (以下同じ)] Cr\$ 188,549.27

3 - FUCS [企業資本民主化基金 (以下同じ)] Cr\$ 180,700.00

合計 (B) Cr\$ 374,257.35

(A) + (B) = Cr\$ 1,725,742.65

HC1/3 生産役務 Cr\$ 575,247.55

共通費用基金 40% Cr\$ 460,198.04

小計 Cr\$ 690,297.06

機構支持控除勘定 (5%) Cr\$ 34,514.85

最終供与額 Cr\$ 655,782.21

カンピーナス州立大学

GASTROCENTRO 統括者

NELSON ARY BRANDALISE 教授殿

医学部  
"Zeferino Vaz"大学都市  
1990.6.21

DF.082/90-SECS/FCM

\*\*\*\*\*  
1990年7月度収納見積書  
\*\*\*\*\*  
\*GASTROCENTRO\*

見積もり供与額		
1 - 移動病院	Cr\$ 2,100,000.00	
合計(A)	Cr\$ 2,100,000.00	
控除見積もり		
1 -FAP	Cr\$	
2 -FCM	Cr\$ 189,000.00	
3 -FUCS	Cr\$ 230,000.00	
合計(B)	Cr\$ 419,000.00	
(A)+(B) =	Cr\$ 1,681,000.00	
HC1/3 生産役務	Cr\$ 560,333.00	
共通費用基金40%	Cr\$ 448,267.00	
小計	Cr\$ 672,100.00	
機構支持控除勘定(5%)	Cr\$ 33,620.00	
最終供与額	Cr\$ 638,780.00	

カンピーナス州立大学  
GASTROCENTRO統括者  
NELSON ARY BRANDALISE 教授殿

医学部  
"Zeferino Vaz"大学都市  
1990.7.18

DF.120/90-SECS/FCM

\*\*\*\*\*  
1990年8月度収納見積書  
\*\*\*\*\*  
\*GASTROCENTRO\*

見積もり供与額

1 - 移動病院

Cr\$ 2,100,000.00

合計(A)

Cr\$ 2,100,000.00

控除見積もり

1 -FAP

Cr\$ ---

2 -FCM

Cr\$ 189,000.00

3 -FUCS

Cr\$ 382,200.00

合計(B)

Cr\$ 571,200.00

(A)+(B) =

Cr\$ 1,528,800.00

HC1/3 生産役務

Cr\$ 509,600.00

共通費用基金40%

Cr\$ 407,680.00

小計

Cr\$ 611,520.00

機構支持控除勘定(5%)

Cr\$ 30,576.00

最終供与額

Cr\$ 580,944.00

カンピーナス州立大学

GASTROCENTRO統括者

NELSON ARY BRANDALISE 教授殿

医学部

"Zeferino Vaz"大学都市

1990.8.20

DF.136/90-SECS/FCM

\*\*\*\*\*

1990年9月度収納見積書

\*\*\*\*\*

\*GASTROCENTRO\*

見積もり供与額

1 - 移動病院

Cr\$ 2,100,000.00

合計(A)

Cr\$ 2,100,000.00

控除見積もり

1 -FAP

Cr\$ ---\*---

2 -FCM

Cr\$ 189,000.00

3 -FUCS

Cr\$ 382,200.00

合計(B)

Cr\$ 571,200.00

(A)+(B) =

Cr\$ 1,528,800.00

HC1/3 生産役務

Cr\$ 509,600.00

共通費用基金40%

Cr\$ 407,680.00

小計

Cr\$ 611,520.00

機構支持控除勘定(5%)

Cr\$ 30,576.00

最終供与額

Cr\$ 580,944.00

カンピーナス州立大学

GASTROCENTRO統括者

NELSON ARY BRANDALISE 教授殿

医学部  
"Zoferino Vaz"大学都市  
1990.9.19

DF.173/90-SECS/FCM

\*\*\*\*\*

1990年10月度収納見積書

\*\*\*\*\*

\*GASTROCENTRO\*

見積もり供与額

1 - 移動病院

Cr\$ 2,500,000.00

合計(A)

Cr\$ 2,500,000.00

控除見積もり

1 -FAP

Cr\$ ---\*--

2 -FCM

Cr\$ 225,000.00

3 -FUCS

Cr\$ 455,000.00

合計(B)

Cr\$ 680,000.00

(A)+(B) =

Cr\$ 1,820,000.00

共通費用基金40%

Cr\$ 728,000.00

小計

Cr\$ 1,092,000.00

FUNCAMP 控除勘定(5%)

Cr\$ 54,600.00

最終供与額

Cr\$ 1,037,400.00

カンピーナス州立大学

GASTROCENTRO統括者

NELSON ARY BRANDALISE 教授殿

カンピナス州立大学  
 予算策定理事会  
 1991年度予算案  
 費用の部：15.3 - GASTROCENTRO  
 書式1 - 活動

CR\$ 1.00 1990.6現在

区分	対照 1989 (済)	1990 (5.31現在)	現活動保守 DPO 算定価格 (A)	稼働業務実態 による現活動 の保守(C)	所期拡充 (B)	合 計 (A+B)	合 計 (C+B)	DPO 提示 拡充案
----	-------------------	------------------	--------------------------	----------------------------	-------------	-----------------	-----------------	---------------

- 人件費
- その他の当座費用及び経費 [数値省略]
- 学術振興優遇
- 資本費用

合計

備考：\* 当期は、既成供与に照らし、目標達成は断念。  
 物理的目標値及び正当事由説明証書を見よ。

総長署名

DPO [企画予算局] 分析

1991年度予算案 pp5

3) 資金取得

その他の当座費用

費用の部：GASTROCENTRO

CR\$ 1.00 1990.6現在

経済 項目	費用 明細	現活動保守 DPO 算定価格 (A)	稼働業務実態 による現活動 の保守(C)	所期拡充 (B)	合 計 (A+B)	合 計 (C+B)	DPO 提示 拡充案
----------	----------	--------------------------	----------------------------	-------------	-----------------	-----------------	---------------

3120-23 アルコール

3120-24 その他の燃料及び潤滑油

- LPG(13k ボトル)
- LPG(45k シリンダ)

- 酸素-窒素化合物
- 3120-30 医薬品
- 3120-50 部品及び付属品資材
  - CEMEQ による
  - 前払い(200 BTN)
- 3120-60 データ処理
- 3120-90 その他の消費材
  - 実効前払い(940 BTN)
  - 前払い(940 BTN 2回、各6月時点)
  - 家具製造調整
  - 倉庫
  - その他の資材
    - ・ CEMEQ使用の消費材を含む
    - ・ X線部門設置-消費材の一部
- 3131-00 役務報酬
- 3132-30 電話
- 3132-80 保守及び一般消費
- 3132-96 清掃業務
- 3132-98 輸送費用
- 3132-99 その他
  - 実効前払い(185 BTN)
  - 前払い65 BTN付加
  - ゼロックス機器設置
  - 郵便及び電報
  - 印刷
  - 新聞1紙講読
  - 官報講読
  - 学術定期刊行物

---

合計

総長署名



1991年度予算案

3)資金取得

その他の当座費用

費用の部：GASTROCENTRO

CR\$ 1.00 1990.6現在

経済 項目	費用 明細	現活動保守 DPO 算定価格 (A)	稼働業務実態 による現活動 の保守(C)	所期拡充 (B)	合計 (A+B)	合計 (C+B)	DPO提示 拡充案
----------	----------	--------------------------	----------------------------	-------------	-------------	-------------	--------------

4120-10 車輛

4120-20 情報処理恒久器材

4120-31 機械及び動力

4120-32 家具一般

4120-33 教育文化器材

4120-34 その他

合計

1991年度予算案

3)資金取得

人員及び人件費

費用の部：GASTROCENTRO

CR\$ 1.00 1990.6現在

経済 項目	費用 明細	活動保守	所期拡充 (B)	合計 (A+B)	DPO提示 拡充案
----------	----------	------	-------------	-------------	--------------

3111-20 人員

3113-12 その他の社会保障負担金

3113-13 FGTS [勤続年限保証基金]

合計

備考－要請資金の用途は要員の一部を補給するのみであり、GC設置が段階的に行われることを勘案した場合、必要人員の全体スタッフに仕向られるものではない。

総長署名

1991年度予算案

1) 物理的目標値

費用の部：GASTROCENTRO

物理的指標 費用項目	物理的対照		所期拡充 - 1991 数量	表記CR \$
	1989 (執行済)	1990 (見積り)		
3120-23	アルコール			
3120-24	その他の燃料 及び潤滑油	(45kg LPG) (酸素+酸化物) (13kg LPG)	酸素シリンダ6×月3回交換 窒素酸化物2×月2回交換 45kg LPG 3シリンダ×4/年	
3120-30	医薬品		要補給医薬品目+50%	
3120-50	資材、部品 及び付属品		+21 室設置予定	
3120-60	データ処理		80段書式ボックス3 胃腸病学専門研究室、消化器細胞病理学研 究室及びレントゲン検査鑑定書用カーボン 紙1,000枚/月	
3120-90	その他の消費材 倉庫  家具製造調整		21増室、研究室、衣服管理、研究室鑑定エ リア補給用に+52% 研究室及び医療処置部門設置に際して不足 する家具、腰掛け等の製作 レントゲン室設置 衣服管理部門設置 備考：設置費用に対処するGC資金の制限に より、以下の額はDGA資金で充填した： CR\$105,408.95	
	Cemcq		21室増設を考慮し、研究室フリーザーその 他の機器に加え補償期間を過ぎた空調機(30 修理及び保守用	
	レントゲン室設置 (必要消費材の一部)		月平均約250回の検査に対処	940BTN
	前払い		前払い2回	
3131-00	役務報酬			
3132-30	電話		日本側コーディネーター、医師、技師、事 務官の活動を考慮し、直通1ライン増設の 必要性	

3132-80	消費及び全体保守	研究所エリア 800㎡ 処置エリア 800㎡
3132-96	清掃契約	1990年10月完成予定のビル及び背後外面を 含む+150㎡
3132-98	輸送経費	
3132-99	その他	
	前払い	65BTN 加算
	ゼロックス契約	備考：月1万枚コピー 1年契約
	郵便／電報	日伯間の通信を鑑み30通／月を加算
	印刷	120字100ページの必要性
	定期刊行物	医学研究雑誌2
	州官報	
	新聞	1誌購読
4120-10	車輛	Kombi 乗り合いバス1台
4120-20	情報処理恒久器材	マイコンPCXT 1台 180cpm 印刷機 2台
4120-31	機械及び動力	
4120-32	家具全般	
4120-33	教材	
4120-34	その他	
<hr/>		
3111-20	人員	ANI基礎一般業務補佐1名 MN15グループ研究所技官6名 細胞病理学1名 免疫寄生虫病学3名 胃腸病学専門研究室2名 AN10中位グループ研究所補佐1名 BN15中位グループX線技師2名 BN15中位グループ事務官3名 細胞病理学研究室1名 X線1名 管理1名 AN10中位グループ管理職員2名
3113-12	その他の社会保障負担金	上述スタッフ関連費用充填
3113-13	FGTS	上述スタッフ関連費用充填

総長署名

1991年度予算案

費用の部：GASTROCENTRO

2) 費用（その他現行費用）項目から見た拡張事由正当説明証書

GASTROCENTRO設置着手は1989年12月で、1990年に範囲設定及び各種活動が開始された。従って、1990事業年度については、諸掛り経費への補完を主とする適性資金贈与の母数に効果的な役割を果たすデータは得られなかった。

現状では以下の診断結果である。

A) GCにおいて実施済み又は実施中の業務

1) 上部消化器内視鏡検査業務

物理的エリア：検査室 3

再生室 1

便通室 1

設備：JICAプロジェクトを介して到着予定の設備が未着であるため、内視鏡検査業務-IICに既設する設備を利用している。

現設備は以下の通りである。

内視鏡検査器	XQ	3
内視鏡検査器	P-2	1
内視鏡検査器	TX-8	2
内視鏡検査ビデオ		1

実施検査形式：

消化器内視鏡検査

対症内視鏡検査

食道拡張

食道静脈瘤

腫瘍摘出

生体組織

平均検査数：326

業務担当教官及び医師：12名

この部門が訓練を提供するのは、現スタッフ、院生及びインターンであり、学部及び大学院レベルの教育研究活動を行なうほか、補佐業務に従事する。同様の活動は、以下に引用する業務に対しても行われる（結腸内視及び超音波診断）。

備考：内視鏡検査業務は、引き続きIIC内部の1部門として位置付けられ、急患並びに入院患者に対応する。しかしながら、IICが行なう対応に必要な資金はこの計画に計上されていない。

2) 結腸内視鏡検査業務]

物理的エリア：検査室 2

便通室 1

設備：内視鏡検査業務-ⅡCに既設する設備を利用し、JICA プロジェクトの設備を待つ。現設備は以下の通りである。

結腸内視鏡検査器 2

実施検査及び処置型式：

- 不撓管による検査  
直腸鏡及びS状結腸鏡  
生体観察並びに細胞学用器材調達  
小腫瘍外科
- 可撓管による検査  
部分及び全体結腸内視鏡検査
- 処置  
内視鏡検査による小腫瘍摘出  
「弾性」痔核切除

月平均検査数：検査1回当たり2時間で25回

部門担当教官及び医師数：7名

3) 腹部超音波診断

物理的エリア：検査室 1

設備：超音波内視装置 1

実施検査型式：

腹部消化器系超音波診断  
対症超音波診断

処置：

嚢胞排出  
膿瘍排出  
方向指示生体組織鏡検

月平均検査数：240

部門担当教官及び医師数：3名

備考：超音波検査業務もHC内で機能し、急患及び入院患者に対処する。しかしながらHCが行なう対応に必要な資金はこの計画に計上されていない。

4) 処置部門サポート業務

4. 1-看護

物理的エリア：婦長室（薬品その他管轄機材の保管）1

看護室（日用看護用機材の保管及び更衣室）1

当部門で活動する看護（HC配置）人員：8名

4. 2 - 検査判定書

物理的エリア：1室

人員数：HC配置職員1名

設備：マイクロコンピューター1、印刷機1

備考：GC研究活動に資する患者の検査判定書及びその他データの情報化初期段階

4. 3 - 受付 (対患者)

物理的エリア：ビル入口ロビー、患者のカード記入並びに案内対応用カウンター2

人員数：HC配置職員1名

4. 4 - 内視鏡検査、結腸内視及び音響内視検査事務局

物理的エリア：1室

人員数：HC配置職員1名

4. 5 - 配膳室 (臨検のため絶食中の被検者にたいする牛乳/ビスケットの配布)

物理的エリア：1室

人員数：FC配置職員1名 (その他一般役務活動も補佐)

備考：医療措置関連活動を支持するため以下の部屋が充当された。

- 医師用 1

- 症例会議及び検討用 1

5) 理事会

物理的エリア：1室 - 業務執行理事及び副理事

3室 - 管理部

人員数：FCM職員2名

パトロール1名

委託職員1名 - JICAプロジェクト事務担当

6) サービス部門

6. 1 保守活動

物理的エリア：暫定1室

人員数：職員 (DGA - 6 再配置 - 保守) 2名

6. 2 案内所/警備

物理的エリア：受付と共通

人員数：当部門再配置の元警備員2名、交替勤務

B) 半設置区域 - 1990年稼働開始準備役務

1) 消化器系細胞病理学実験室

物理的エリア：検査室2 (実験室)

電子顕微鏡設置用ルーム1

詳細：礎石ベンチを擁す

2) 胃腸病学専門実験室

物理的エリア：検査室3（実験室）

再生集積室1

事務室1

実験室長室1

洗面所ボックス2

詳細：礎石ベンチ、物置を擁す

C) GASTROCENTRO と共通設置部門

CL部消化器病学訓練事務局

物理的エリア：2室

訓練専従員

備考：GASTROCENTRO ビルの物資も必要となる（清掃、メンテ、消耗品等）。

D) 半設置区域

1991年稼働開始

－X線

物理的エリア：検査室1

準備室1

制御室1

フィルム処理室1

再生室1

洗面所1

事務室1

稼働開始未確認

－免疫寄生虫学研究室

－顕微鏡

－集積室

－レーザー治療

備考：共同使用区域は、統合に向けての分割が未了である（例：物的資金に総括算定計上されている患者及び医師用トイレ合計28ボックス、アクセスランプ等）。

E) 補足部門－1990年度追加完工

物理的エリア：約150㎡

以下の用途に資する：

倉庫資材保管

機材殺菌支持

看護婦制服及び機材管理

日用清掃及び保守機材保管（工業用フロア磨き、バケツ、ほうき等）

## 1991年度予算案に関する全体考察

JICAプロジェクトに基づく設備の到着及び位置を伴う1991年度は、GATROCENTROビルに実際投下される年間専門措置数が倍加又は以下の変数次第では3倍加の可能性もあると見込まれている：設備数、設置日、物資適性化（消費材、恒久資材）、設備条件、援助の質、学術的関心度又は設定する研究目標の重要性。ANEX Iに日本から来る予定の設備一覧を示す。

ただし、日本製設備の設置如何を問わず、1990年に比較してより安定したビル内日常対応も可能となろう。即ち、FCM [医療科学部-以下同じ] が汎用内視鏡検査器を最近取得し、これによって旧式設備の恒常的な故障事態が緩和されるものと期待されるからである。

本年度は、多くの面で、附属病院 [HC-以下同じ]（薬局、倉庫、ランドリー）、医療科学部（輸送、郵便等）、CAISM (GCからHCへの衣服運搬)、DGA [総務-以下同じ] 及び総長事務室（家具調達）を利用し、特にHCで既に機能しているいくつかの役務を移転するなどして、この医療分野の設置要請への補完対応に努める。

又、多くの未決定変数があるので、1991年度予算案が、GASTROCENTROに想定する機能にとって適正とされる要望を下回る点に留意する必要もある。従って、確実さという点では、当部門への更なる協力に頼る必要がある。しかしながら、予算案の作成は当方の経費負担を段階的に最小化していくよう努力する方向で行われるものである。

予算外資金に関しては、FCMの計理認可を基礎とするが、最近の見積額では、GC担務関連取得総額の約25%が当センターに復帰するものとしている。この割合は、月によって異なり、実施検査総数並びに検査型式、その他設備故障、休暇、ストによる対応低下を主とする因子に左右される。

当該予算外取得協定が支払い対象とせず、費用の一部としてのみ算入される研究検査については特に懸念される。研究目的に顕著に関連する部門であるため、現下では変動があつて数量化はできないが、支払い対象外に置かれている相当数の検査項目が現実化する傾向にある。

この懸念に加え、今後半年間に稼働を開始する必要がある消化器系レントゲン部門の需要を正確に把握できず、その結果として、通例では非常に高価な当部門の経費に必要な資金の明確化が不可能であるという事実が挙げられる。

従って、楽観論は別として、変動分を含めGASTROCENTROが計上し得る予算外臨時資金取得の割合は、1990年度の事例に鑑みて、1991年度にも発生することが確かな、設置段階における特異な緊急且つ不測事態に対処する予算として成立し得るものとするのが妥当であろう。Anex IIに、90年8月度に資金解除目的でFCMが作成した予算外臨時資金取得見積もり表を示すが、そこには最終見積もり供与額に達するまで利用可能な配分例をうかがうことができる。

1991年度予算案から見出せる点は以下の通りである。稼働済み業務の現状から見て現下活動保守に必要な資金Cr\$2,657,567.48、これに所期拡張費用価格Cr\$3,360,673.85を加え、諸掛かり経費及びその他現下費用必要合計Cr\$6,018,241.33。これに資本支出所要額及び人件費揭示額をそれぞれCr\$5,810,948.00、Cr\$4,697,519.97を加算して、総合計額はCr\$16,526,709.30となる。

8月度用にFCMが作成した予算外臨時資金取得見積もりは、内視鏡検査及び音響内視鏡検査部門でHC



の実施した役務に留まるものであり、HCにおけるこの両部門の業務取得はHCに復帰することが既に決定されているものの、実状を反映する条件は備えていないことを明確にしておく必要がある。このことは、当該見積もり合計額が将来のGCにおける資金取得のため母数の役割を果たすとは到底見做し得ないことを意味する。そこには外科センター実施措置及びその他HC内各個別実施処置（入院患者、救急、小児）の支払いは含まれていない。

図解という名目で、当見積もり取得に関連した解除資金の約86%が、病院機材を含む恒久資材への優先対処計画化に役立ち、消費材への対応に差し向けるだけの残高は生じなかったことを付言しておく。

1990年の資金供与に関しては、清掃専門会社との契約に際して、諮問を受けたDGA-6及びDGRHには昨年来この部門への職員採用条件がなかったため、負担の大半をセンターが担って上で、対処する必要があった。市場及び国の経済政策変更のため発生した問題により、契約はまだ締結されていない。この件は、8月現在もうひとつの入札が棄却され、1990年度末に向けて解決できる応札を緊急に行なう必要があるため、DGAに即して再調整がはかられているところである。従って、この入札に引き当てる可処分資金の差額は直ちに再編して現下供与のその他経済要素に起因する負債補填に充当する必要がある。

1990年度供与をベースに現下活動の保守に対してDPOが算出した額Cr\$1,853,306.00は、清掃会社入札過程準備資金の一部を一時的によせ再編する可能性が、資金供与の実施を損なう点を念頭に置いても、稼働済み役務現状との間に格差が生じている。

以下に示す要素別正当事由説明証書は、詳細物理的目標説明書と併せ、1991年度予算提案分析のための資料となろう。

当学総長署名

## 1991年予算案

### 2) 費用項目別拡張事業正当事由説明証書

3120-23アルコール：この予測は、HCからGCまで清潔な衣服と汚れた衣服を連日輸送するため、最低週1度あるいは必要時に行われる病院及び薬局が使用する資材倉庫搬送に必要なとされる車輛に関する費用充填に際して要請されるものである。後者には、主として専門会社の特殊修理を要する月1～2回のサンパウロその他カンピナス現地迄の機材移動業務があり、センターの行なう小規模取得の不可欠活動を可能にするキャンパス-市街往復条件を中心とする。現在、この活動は、GCのいくつかの活動に対してFCMが行なっている車の貸用協力にもかかわらず、病院部門移動分の50%を補填することも不可能となっている。この件の搬送活動維持のための予測平均消費量は250Lとなった。

3120-24その他の燃料及び潤滑油：1990年度供与には、月当たり13kg LPG 1シェア消費、消化器細胞病理学研究室、胃腸病学専門研究室の設置に対応するには、3か月交換で最低45kg LPG 3シェアの消費分、酸素、窒素酸化物ネット約10m<sup>3</sup>0のシリンダーの必要性は考慮されていない。シリンダーについては、月間約640回の処理対応数として、月3回交換酸素シリンダー6及び月2回交換窒素酸化物シリンダー2が必要である。当センター資金だけでは13kg LPG 1シェアの維持しかできないので、この事業にはHCの協力を算入する必要がある。従って、この予測は最近数か月の観測消費量をベースに行なった。

3120-30-薬品：購入を実施する一連の段階に随伴する病院用薬品取得のインフラ部門及び個別図式の需要に対処すると、当費用への対応にはHCに重きを置くことが明らかに必要となろう。しかしながら、現在病院内には置かれていない場合がほとんどで、仮にあっても必要数がないGC用の特殊医薬品のいくつかを取得する必要がある。従って、この需要に即して、院内不在数薬品への対応のためこの予測が行なわれた次第だが、当部門への供与では当該薬品費用への対応ができず、患者対応にしばしば支障を来したため、当薬品の90年6月実定価格に基づき、実際資金予想（C欄Cr\$390,166.00）に対して50%補給する必要性が注目される。

3120-50-資材、部品及び附属品：この分野には56室、洗面所ボックス28を算入し、実際面で空調機器30、マイクロコンピューター4、印刷機3、手動、電動、電子タイプライター、換気扇、冷凍庫、洗濯機、乾燥機、顕微鏡、小物、照明源等を擁するものとする。大半が90年8月以降補償期間を過ぎており、頻用したため、CEMEQ関連費用充填に足りる資金を算入する必要性が生じている。マイクロコンピューター2機はDICOMであるが、CEMEQによると、不具合が多く、部品及びCPUプレート交換を通例とする修理の経費が高い。上述資材に対処する資金の見積もりを、1991年6月までに設置予定の21室を加えて行なったが、このうち10室は、GCへの段階的移転を既に開始している消化器細胞病理学研究室、胃腸病学専門研究室部門に関与するもので、1990年度供与分には対応条件がない費用の要請をこれらの研究部門が行なうという実現手段がある。

3120-60-データ処理：90年1月以降具体化してきた内視鏡検及び結腸内視鏡検業務の医学的鑑定書の情報化に際しては、中央倉庫の登録品目でない消費材取得を算入する必要がある。即ち、各部門の月別消費量は大学当局による一括購入の目安とはならず、各单位毎に計画を立てる必要がある。たとえ

ば、2通連写式カーボン書式の消費量は内視鏡検、結腸内視鏡検及び腹部超音波診断の各検査鑑定書用に毎月3箱であるが、研究部門の月平均検査数350相当、レントゲン検査250回とした場合、件の鑑定書、診断報告書各2通に対応する月別消費量としては3箱増量する必要があるであろう。

備考：実際消費量（C欄参照）と90年6月価格での供与分との間の差額はCr\$126,601.00である。

#### 3120-90-その他の消費材

倉庫：割り当て制限により未対応となっている中央倉庫要請分の衛生及び清掃品目を含めた月別平均実際消費量に基づいて見積もり算定を行なったが、HC倉庫関連の当方需要を補給する必要がある。最近5か月の月別実際平均消費高は、Cr\$59,151.12である。これは稼動中の35室のみを反映する数値である。研究室関連の消費については、まだ設置段階で平均消費量一定化が困難なため算出できなかった。胃腸病学専門研究室及び消化器細胞病理学研究室の消費分並びにToshiba do Brasilから取得し1991年上半期末設置予定の消化器系レントゲン設備設置の着手に必要となる消費一部分への対応を可能にするため、C欄に引用した実勢価格に対して52%増で見積もった。この設置具体化に際して生じるその他の必要性については、HCの協力に依るものとし、本見積もりでは考慮しない。

家具製造調整：家具、腰掛け下の収納庫、壁固定式収納ケース、小物箱、流し下の扉等の調整に要する費用補填に対するGC資金には限界があるため、DGA資金Cr\$100,408.95によって当期は充填されたことに注目を要する。研究室の要処置部門完成に要した資材の一部は、Cr\$5,399.94を計上し、残りの調整待ち部分の見積もりはCr\$50,000.00となる。拡張見積もり額は、本年度家具製造調整に供した室数に対する平均費用に位置しており、DGAに依れば、90年度は不可能とされる家具一覧の完成、更にレントゲン室、衣服保管管理、消費材保管管理、警備巡回一般保守業務部門の設置合計21室に供する家具類一覧に対処するものである。

CEMEQ：90年6月迄のマイコン3機の修理に要した費用をベースとし、手動、電動、電子タイプライター、マイクロコンピューター、印刷機、空調機器、冷凍庫、研究室及び措置部門のフリーザーの多くは集中的利用並びに耐用年数の消化による不具合を呈しており、予測困難な経費であることも考慮して、見積もり額は州内調整を施するものとして月平均約Cr\$1,800.00を基礎にして行なった。

備考：消化器系レントゲン部は1991年上半期末までには試験段階に入るものと思われる。この経費見積もりは、月平均およそ250回の検査で稼動する件の初期段階への対応費用の一部のみを充当する位置にある。X線フィルム、検定、現像液、定着液等で対応するX線診断業務を介してHCに依存する必要があると生じるだろう。X線稼動初期段階以降は、月平均費用又は検査費用を決定するコストの正確な母数設定が可能となるだろう。

前払い：1990年6月BTNに基づいてC欄に設定した実際価格は州内供与一括額に対するものであることに注意する。一病院部門であることから、ピンセット、装置及び機具清浄機器の両方又はいずれか一方、カテーテル〔導尿管〕等の医療機材の即時支払い購入推進用資金の取得を算入する必要がある。月平均費用だけでは、一括予算同様州内資金にも限界がある以上、母数として不十分である。

当方が必要とするのは、同じく1990年のBTN940をベースとした最低2回の前払いを加算して、GCで稼動済の各種研究業務に更に円滑な対応をはかることである。

3131-00-第三者役務報酬：1990年度に対する見積もり予測は、ビル保守及び小修繕実施のための第三者支払い対応を目的としたものであった。修理、瓦斯配管及び塗装期間内にDGA-6並びにESTECが提供した協力によって、他州との格差是正のための資金再調整を行なう必要が生じた。1991年度活動の維持については、C欄の実際データをベースとして算定する。

3132-30-電話：直通ラインは現在1本のみである。月平均費用は約Cr\$1,296.00であるが、供与額に見合う当ユニットの経費抑制を反映するに過ぎない。直通ラインを少なくとももう1本増設し、呼び出し回数を緩和し、1990年11月現在GCで常時活動に従事している日本側コーディネーター、医師、技師のために日伯間の最低通信ラインの疎通をはかる必要がある。

3132-80-一般保全及び保守：C欄明記の実際価格に対しては、平均値に基づき、研究室エリア800㎡、執行部分及び本部ビル背後支持区域800㎡の保全及び保守に対応するための増額が確保された。

3132-96-清掃作業契約：年頭から正当手続きをとってきたGCに対応する入札過程で応札会社との間に問題が生じたため、新規の入札がDGAを介して設定されている。90年6月現在の当該企業実定平均価格に基づき、清掃専門会社との年間契約見積もり額は、1200㎡としてCr\$600,000.00となる。ただし、1990年10月完成予定の付属エリア(+外部)の建設を考慮に入れた場合、経費付加金は、Cr\$82,494.00である。

3132-98-輸送費用：資金の限界を鑑み、格差のある他州に対する内部再調整を施す必要が生じた。サンパウロ-カンピーナス間の資材輸送、他所での分析に供する研究室機材、検修に付す機材及び設備の両方又はいずれか一方の梱包、情報及び科学技術上重要なデータの両方又はいずれか一方の交換にかかわる小経費に対処する増額見積もりを行なった。

3132-99-その他：

前払い：鍵作成費用、Sedex [経営者開発シンポ]の小経費、病院用の適性衣服並びに医学検査施行用の安全を期したエプロン等の調達に関わる費用に対処するためのものである。月平均消費量をベースにすると、この推進には185BTN以外に、65BTNの増額が更に必要となる。

ゼロックス契約：月1万枚のコピーに対処するため、1990年6月時の価格で見積もった年間契約額は、再調整を度外視して、Cr\$130,603.30となる。

郵便及び電報：資金自体の制限に鑑み、通信費用について当期はFCMの協力に依る必要があった。90年6月価格での郵便関連費用を充填するための実状と考える必要に加え、2000年11月以降は更に顕著となる日伯間の通信に対処するため、毎月最低30通の書簡を加増する計画である。

印刷：資金の利用範囲内並びに優先順位に照らすと、当病院分野で利用される印刷物の最低必要限の確保も儘ならなかった。最緊急需要に対応するための、最低100頁120ブロック印刷機に関わる費用の充填が望まれる。当部門が使用する印刷物の再構成を可能にする検査鑑定書の情報化処理が行われなくなると、この必要度は更に高くなる。

定期刊行物：現場担当者、院生並びにインターンの指導及び訓練に重きを置くと、範例及び対置例の中核としてのGCにとって、技術・教育的支持並びに胃腸病学、上部消化器内視鏡検、下部消化器内視鏡検、音響内視グラフ等の分野の医学研究の実施を算入し、当部門の医学情報取得のための条件を整え

ることが不可欠となる。当期については1誌の講読もできなかった。医学研究雑誌の講読は最低2誌必要で、その見積り費用はCr \$ 40,000.00となる。

DOE [州官報] : 1991年度見積りでは1紙を増加講読し、常時検討を要する他分野の情報その他のデータについての刷新、随伴及びアクセスを可能にした。

新聞 : 1991年度見積りでは、当市又はサンパウロの新聞1紙を増加講読し、情報へのアクセス並びに刷新を可能にした。

3131-29-人員及び人件費 : この要素の算定は、GASTROCENTROに必要な全体人員スタッフへの対応を目的とはせず、具体化が段階的であり、新規センターの空員スタッフが大学レベルでは未決定であることを視野に入れたものである。現在のところGCは、HC配置のナース要員及びHC並びにFCMに同様配属されている当該分野支持人員の算入を見込んでいる。管理部門にはFCM配属職員2名と巡回員1名の配置を見込む。本計画化における物理的目標値の区分数並びに機能によって、提示案内の優先人員は、その大半をX線並びに研究所専門技官で占めることが読み取れる。計画に盛り込まれた管理要員は以下のように優先されている。事務員3名の内訳は、消化器系細胞病理学研究所各所、レントゲン検査、理事会にそれぞれ1名ずつ。管理職は購買-インボイス作成に1名、決算所作成、資産管理並びに倉庫管理に1名の合計2名。事実上、空員の創出を意味するので、資金供与の見積り算定が必要となる。拡充部門の具体化及び稼働を伴う1991年度の推移については、実際必要人員数の上方修正の必要性が生じ得る。経費見積り算定は、入所当初段階の水準及び物理的目標値に引用したグループに沿って、90年6月時点の実効給与で行なった。

4120-10-車輛 : Kombi乗り合いバス1台の取得 - GASTROCENTRO日常業務活動に不可欠。HCとGC間の衣服洗濯輸送1日2~3回。病院及び薬局用倉庫資材の輸送。サンパウロ、カンピーナス以外の場所又は地方に在る専門会社の特殊修理を要する機材の輸送。小物調達その他GC関連活動実施のためのキャンパス・カンピーナス間輸送。現状での需要は、キャンパス外の行程についてはFCM、衣服搬送にはCAISMの輸送に「便乗」しているため、約50%達成されているに過ぎない。

4120-20-情報恒久機材 : 文書処理及び研究室部門の情報化提案の範囲内で、本案には、今後1990年度内に稼働を開始する研究所へ対応するため、Winchester付きマイクロコンピューターPC-Xtを少なくとも2台以上、毎分180字能力の印刷機1台を取得する件が含まれる。更に、既存のWinchester抜きマイクロコンピューターに連結する同型式の印刷機2台以上の取得も計画されている。

4120-31-機械及び動力 : 研究及び処置部門のための試薬その他医薬品保管用フリーザー並びに冷凍庫の取得を補給する必要性。当ビルプラン認可の折りに、研究室その他適正温度に置く必要のある機器が設置される部門用に、日本及びUNICAMP側技師チームが設計した空調機設備の数を整備する必要性。GASTROCENTROビルのレイアウトでは、空調機44台が計画に盛り込まれているが、資金の限界により、DGAを介して取得したのは30台だけで、これらは1990年上半期完成目途の部門に優先設置した。同年供与予算では、当目的に必要な額を満たすには到らなかった。

4120-32-家具全般 : 担架及び検査テーブル用クッション、研究室部門患者待合室用腰掛け又は椅子、写真及びフィルム現像関連試薬並びに化学製品、設備の交換部品及び附属品の保管のために日本側

が設計したものに合致するスチール家具、家具調整部門に調達条件がない木材並びにデスクの収納庫、研究室用椅子等の取得を補給する必要性。X線事務室及び今後1990年度内に完成予定の付属エリア関連の家具については一切含まない。更にいくつかの研究室その他で家具整備を必要とする箇所がある。

4120-33-教育文化娯楽資材：消化器系疾患及びGASTROCENTROが関与する疾病に関する文献及びフィルム保管機材関連費用。1990年度供与予算では、この部門の費用をまかなうことはできなかった。

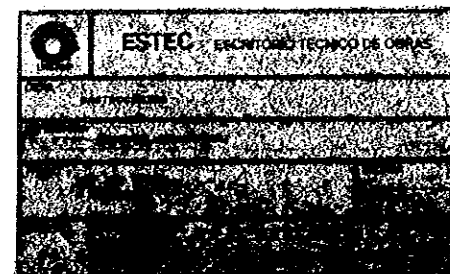
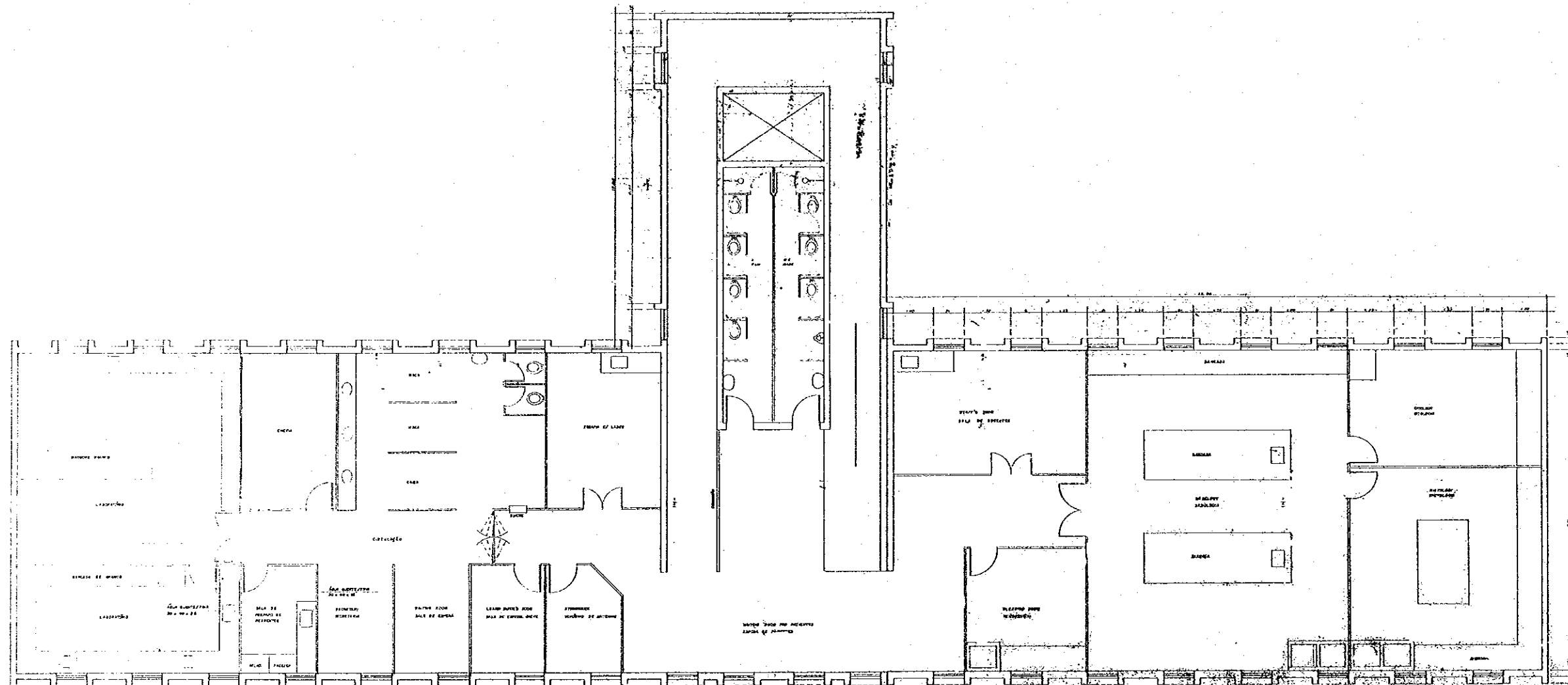
4120-34-その他：病院用小規模設備取得費用。機材殺菌用ケース、組織学用ナイフ、検査デスク、血清支持台、検査室補助机、心臓麻痺対処キャリジ、ピンセット、はさみ等の外科用機材。この項目についても、1990年度供与額では、費用経費をまかなうことはできなかった。

備考：恒久資材関連費用が、予算案全体の中で、稼働中の業務の実状に照らし、現活動維持に必要な資金として示されており、拡充項目（車輛及び情報処理は例外）としてではない点が注目される。この文脈の中で、X線事務室の具体化は、家具については未決定であるが、同室が占有する他部門の決定次第であるため、推進される。

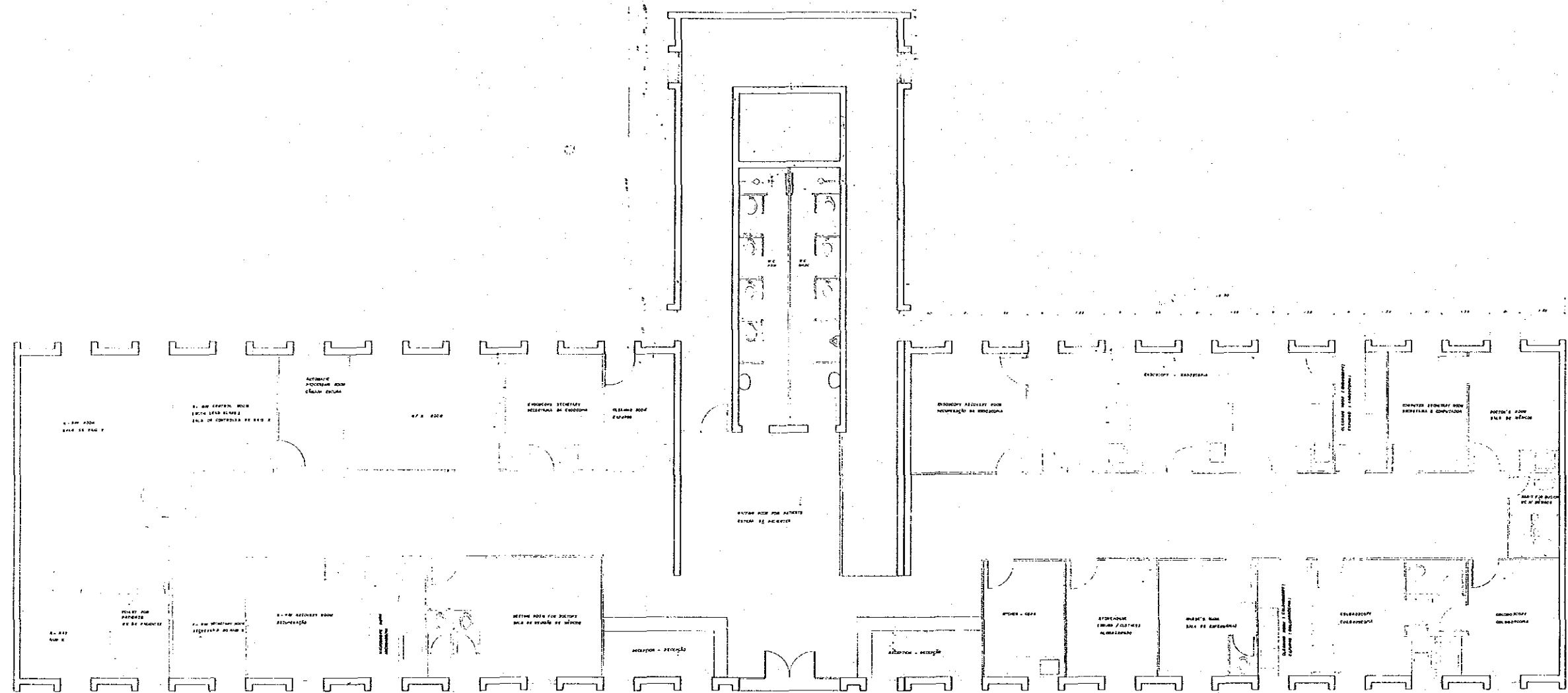
以上の通り、1991年度については、1990年度に発生済みの稼働開始部門向け恒久資材取得に対処する資本費用への供与が不可欠である。これらの経費は次期活動開始部門に関連するものであり、供与の拡大を意味するものではない。


総長署名

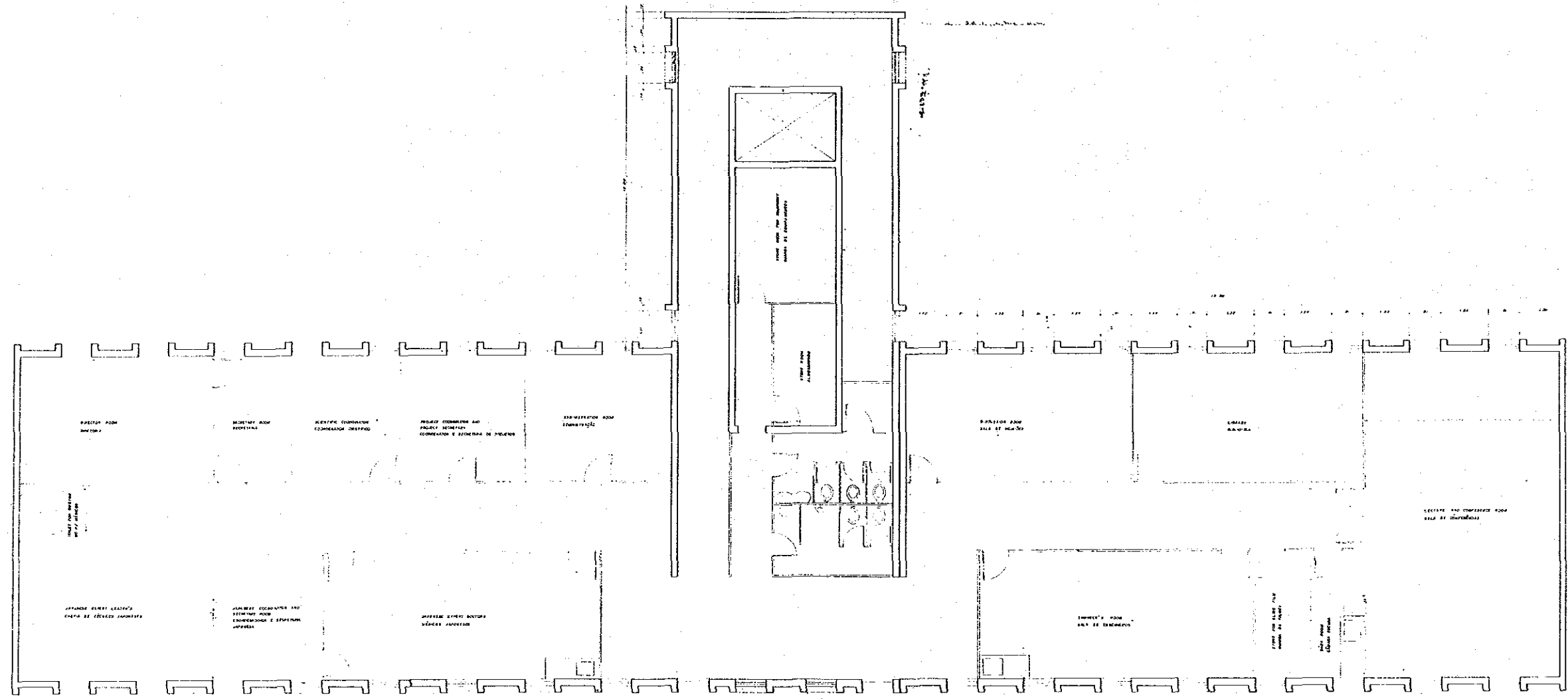









	<b>ESTEC</b> ESCRITÓRIO TÉCNICO DE OBRAS	
	OBRA: BASTROCENTRO	
REFERÊNCIA: PROJ. DE ARQUITETURA		
TÍTULO: LAY-OUT INTERNO PLANEJAMENTO TÉCNICO	ESCALA: 1/50	DATA:
	NÚMERO: 01	
DIRETOR ESTEC:	PROJ. ARQUITETO:	ARQUIVO:
CENÁRIO:	LOCALIZAÇÃO:	008



 <b>ESTEC</b> ESCRITÓRIO TÉCNICO DE OBRAS	
OBRA	GASTROCENTRO
REFERENCIA	PROJ. DE ARQUITETURA
TÍTULO	LAF-OUT INTERNO 2º PAVIMENTO
ESCALA	1:20
DATA	
NÚMERO	DIRETOR ESTEC: JOÃO CARLOS LOPES DA SILVA
02	PROJ. PAQUETO
	DESENHO: WILSON AUGUSTO NETILLO
ARQUIVO	408